



株式会社デジタルガレージ  
2014年6月期 第1四半期決算サマリー

2013.11.12



**Digital Garage**

*Providing New Contexts*

**2014年6月期1Qは、前年同期比37%増収、経常利益同約3倍を達成**  
 ~マーケティング、ペイメントは順調に拡大、インキュベーション環境好転で成果実現~

単位：百万円	2013.6期 1Q (実績)	2014.6期 1Q (実績)	前年同期比 (金額)	2014.6期 2Q累計 (予想)	2014.6期 通期 (予想)
売上高	5,307	7,273	+ 1,966	15,000	32,000
営業利益	51	86	+ 137	300	1,800
経常利益	167	473	+ 306	350	3,500
当期純利益	213	389	+ 176	100	2,100
EBITDA	696	970	+ 274	940	4,800

Note: EBITDAは、税引前当期純利益に支払利息、減価償却費及びのれん償却費を加算し算出しております。

(単位：百万円)	2013.6期末	2014.6期 1Q末	前期末比 (金額)	主たる変動要因/備考
<b>流動資産</b>	33,837	33,363	-474	
現預金	15,329	13,717	-1,612	投資及び法人税と配当金の支払等
未収入金	9,037	8,972	-65	決済事業関連科目
金銭の信託	3,768	3,886	+118	決済事業関連科目
営業投資有価証券	2,641	3,492	+851	積極的な投資を継続
<b>固定資産</b>	22,173	22,443	+270	
投資有価証券	5,521	5,786	+265	
投資不動産	3,102	3,266	+164	
のれん	9,968	9,808	-160	
<b>資産合計</b>	56,010	55,806	-204	
<b>流動負債</b>	21,801	21,019	-782	
預り金	18,229	15,035	-3,194	決済事業関連科目 (期末曜日要因)
有利子負債	305	3,198	+2,893	運転資金需要の増加
<b>固定負債</b>	6,950	6,915	-35	
有利子負債	6,799	6,786	-13	
<b>負債合計</b>	28,752	27,934	-818	
<b>純資産</b>	27,258	27,872	+614	
利益剰余金	7,003	7,158	+155	
<b>負債・純資産合計</b>	56,010	55,806	-204	

流動比率  
155%(13/6) 159%(13/9)

自己資本比率  
46%(13/6) 47%(13/9)

## 3つの事業セグメントによる”Lean Global”の推進

### I インキュベーションセグメント

世界を変えるサービスの育成を通じて次世代のインターネットビジネスを創出

- ▶ 国内外の有望ベンチャー投資育成
- ▶ 国内外のメディア開発
- ▶ Lean Startup手法による技術開発/事業開発

INCUBATION



Open Network Lab



DG INCUBATION

neo

### II マーケティングセグメント

最先端のデータサイエンステクノロジーとWeb広告/プロモーションノウハウの提供により、クライアント企業を支援

- ▶ データサイエンス事業
- ▶ Web広告・メディア事業
- ▶ OtoO関連施策、事業開発

MARKETING



DG&Ibex



BI.GARAGE



NaviPlus

### III ペイメントセグメント

日本市場で培ったノウハウと技術をもとに、アジア最大の決済プラットフォームを目指す

- ▶ 国内最大級のオンライン決済インフラ
- ▶ アジア・プラットフォーム

PAYMENT



econtext



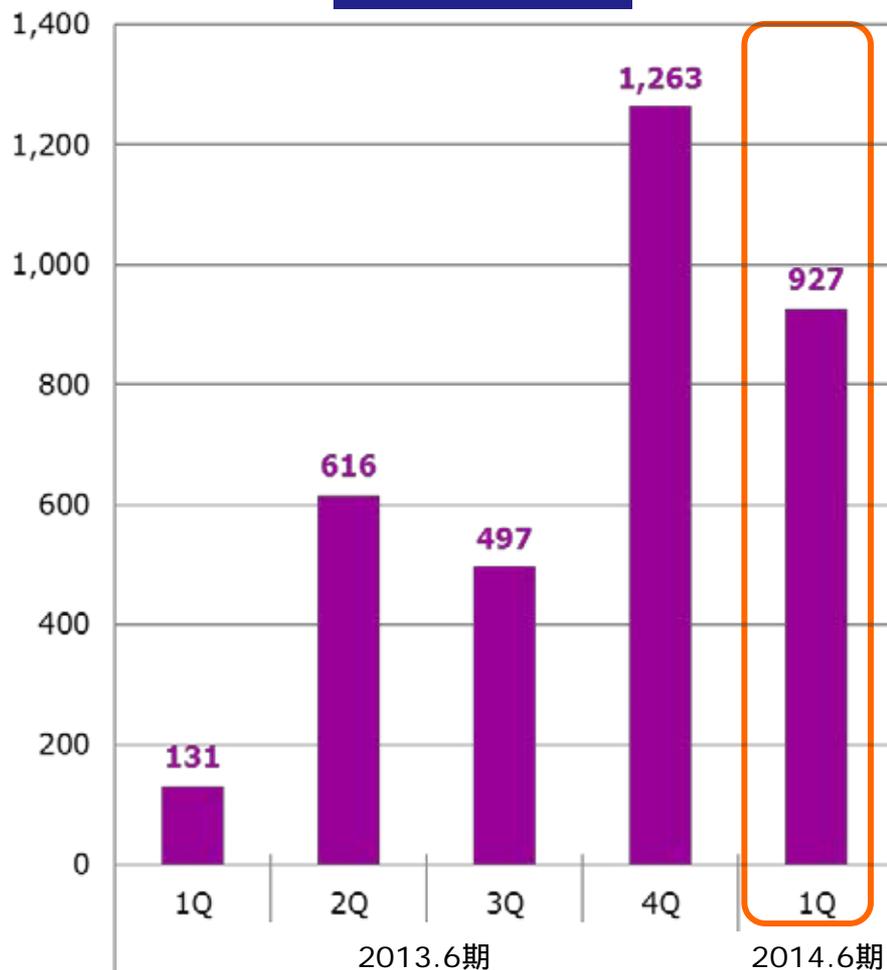
econtext ASIA



veritrans

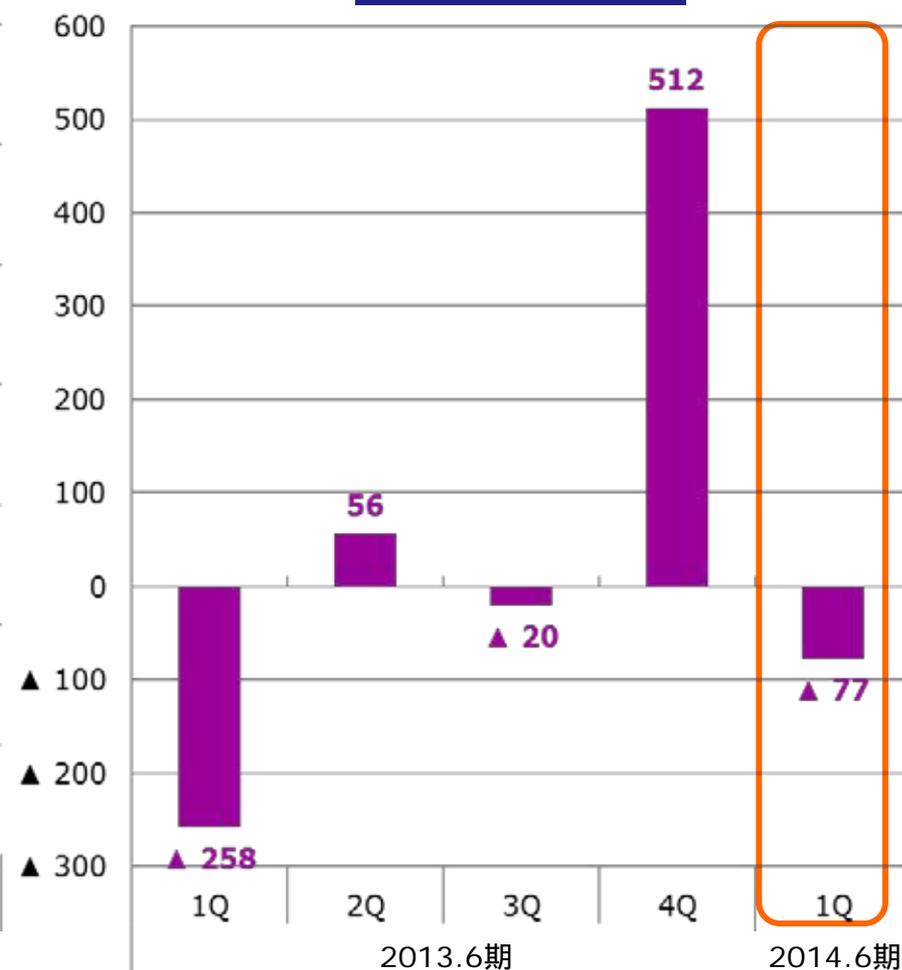
## 【売上高】

(単位：百万円)



## 【営業利益】

(単位：百万円)

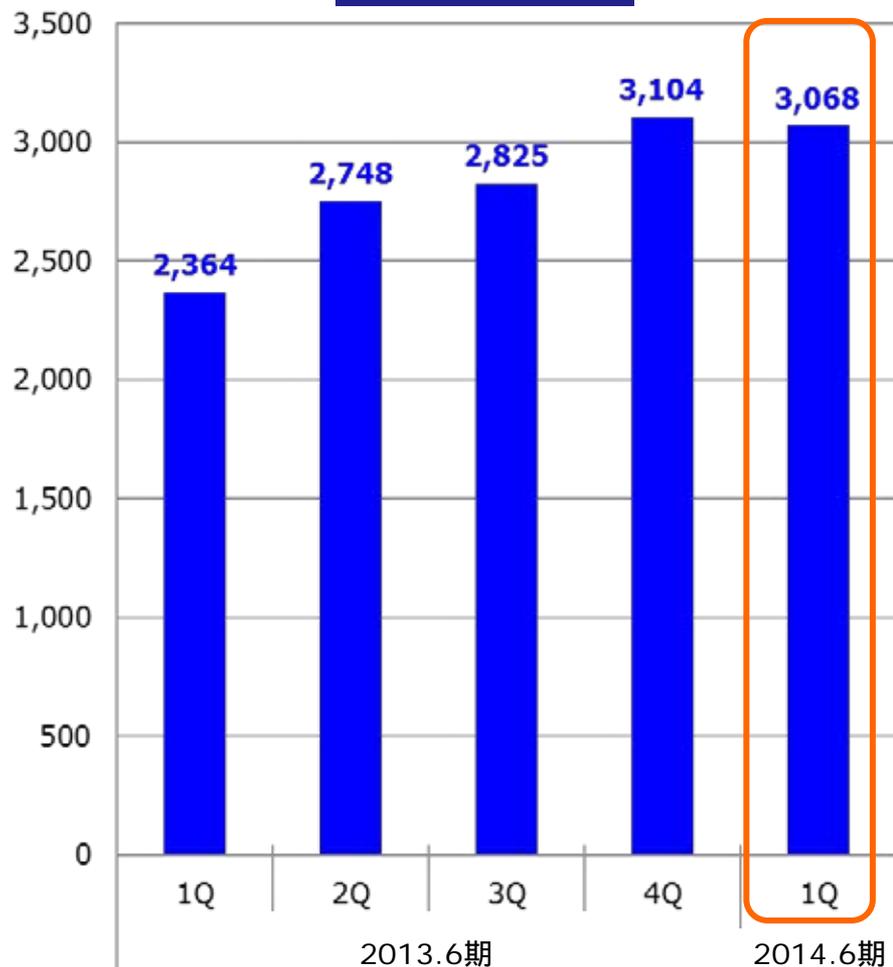


保有株式の一部売却、及び米国Neo社のアジャイル開発事業の拡大で大幅増収。  
サンフランシスコにLean Globalの中核となるインキュベーションセンター開設。  
(通称：DG717)



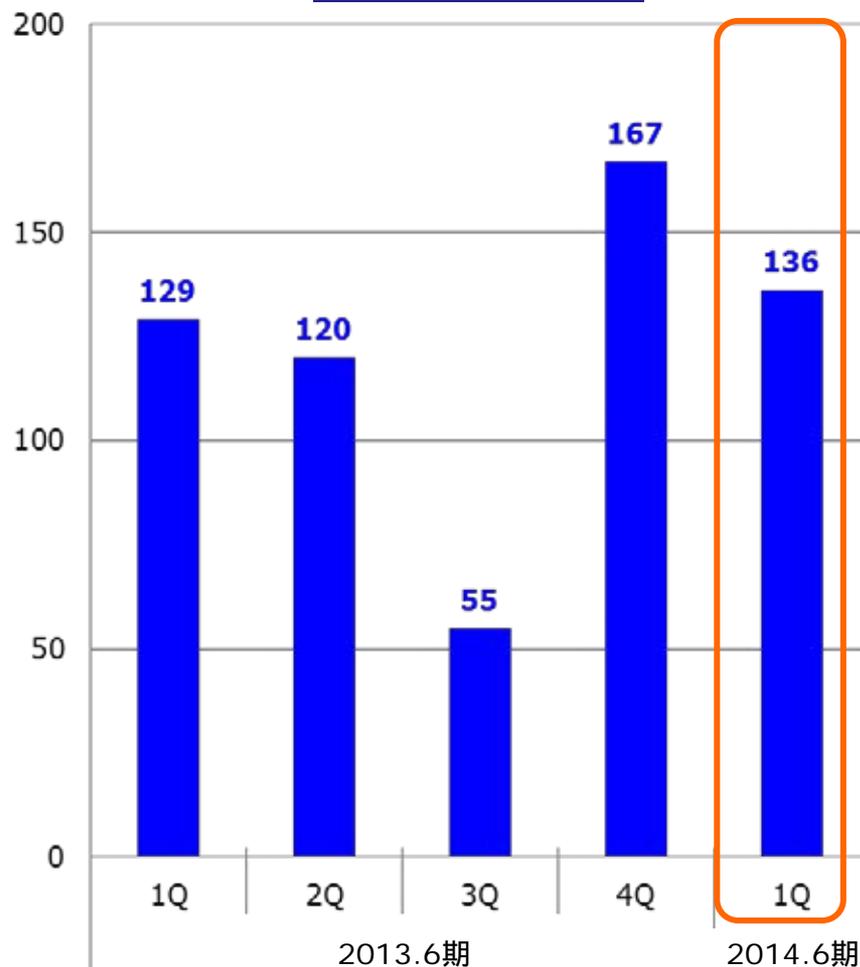
## 【売上高】

(単位：百万円)



## 【営業利益】

(単位：百万円)



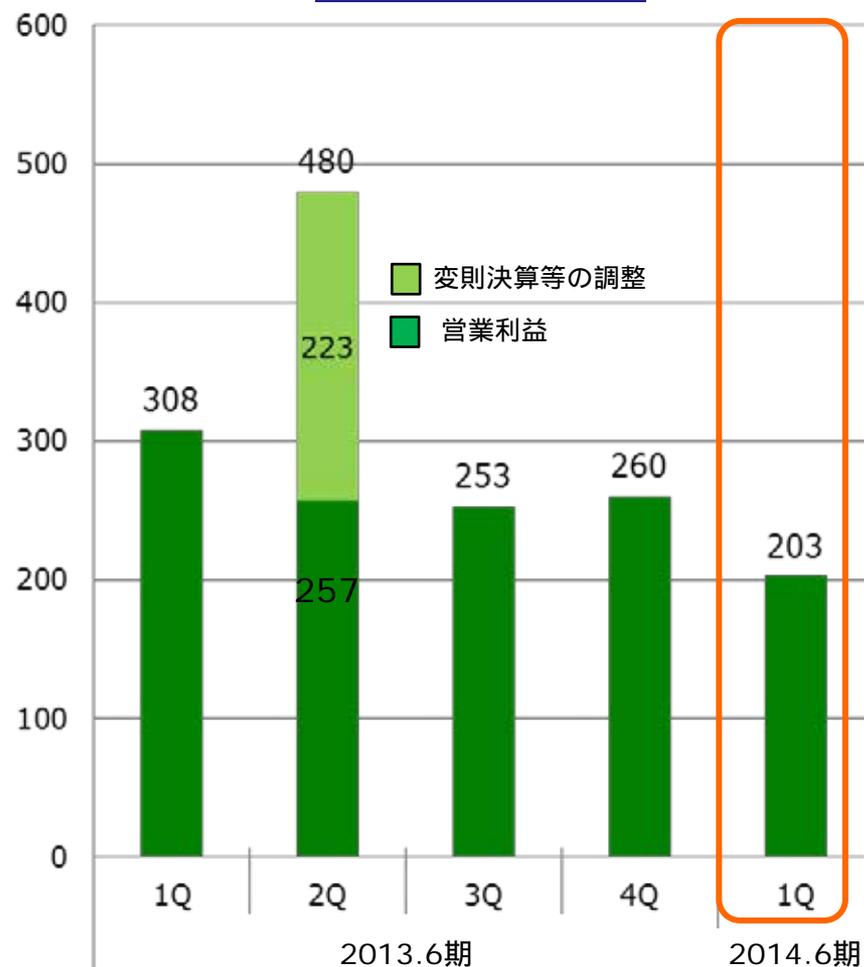
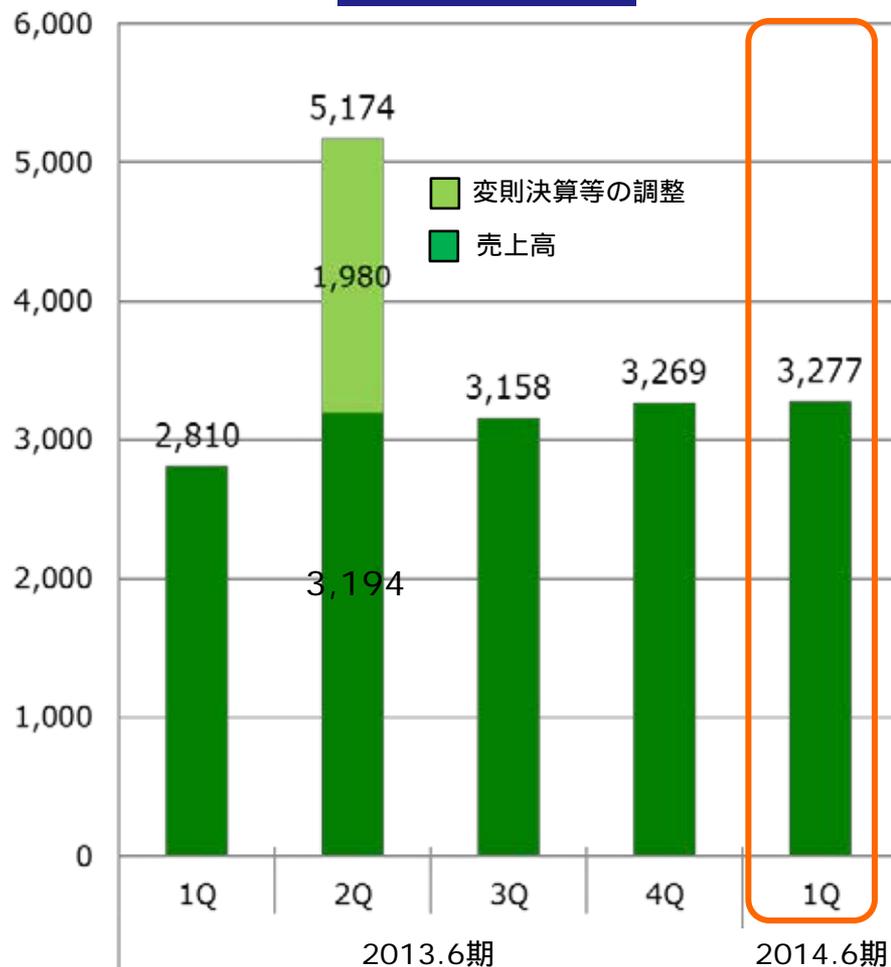
ネット広告、モール事業が全体を牽引し、前年同期比30%の大幅増収。電通、カカコムと共同で企業のマーケティング活動最適化に向けたデータサイエンス事業を開始。

## 【売上高】

## 【営業利益】

(単位：百万円)

(単位：百万円)



国内Eコマース市場の拡大を受け、前年同期比17%の大幅増収を達成。香港証券取引所への上場関連コストを計上。インドネシア、中国に続き、アジア戦略を本格始動。



## Lean Globalの中核となるインキュベーションセンターをサンフランシスコにオープン



SFで準備を続けてきたインキュベーションセンター「DG717」が竣工。2013年11月5日、6日にこけら落としとして、例年東京で開催している「New Context Conference」を開催した。5日の開所式にはSF市長のEd Lee氏が出席し、11月5日をSFにおける「Digital Garage Day」にしたことを宣言した。日本からは、麻生太郎副総理から日米の交流点となることへの期待メッセージが寄せられたほか、在SF日本総領事館の渡邊首席領事が臨席しスピーチを行った。カンファレンスでは伊藤穰一が基調講演を行ったほか、Twitter社 共同創業者のBiz Stone氏などがインターネットビジネスの最前線についてスピーチを行った。



DG717の説明ページへのリンク  
<http://www.garage.co.jp/ja/dg717/>



## DG717の開所は国内外のメディアでも大きく取り上げられた

Wall Street Journal

Digital Garage Announces Startup Incubator in San Francisco to Bridge Japanese and U.S. Technology Communities

<http://online.wsj.com/article/PR-CO-20131104-907573.html?dsk=y>

Yahoo Finance

Digital Garage Announces Startup Incubator in San Francisco to Bridge Japanese and U.S. Technology Communities

<http://finance.yahoo.com/news/digital-garage-announces-startup-incubator-160028310.html>

世界新聞網

Digital Garage進軍金山

<http://worldjournal.com/bookmark/23988270-Digital-Garage->

日経新聞

デジタルガレージ、米で起業支援施設の開所式

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD060P4\\_W3A101C1TJ2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD060P4_W3A101C1TJ2000/)

CNET

デジタルガレージがサンフランシスコに拠点開設--キックオフイベントを開催

<http://japan.cnet.com/news/service/35039533/>

デジタルガレージ、サンフランシスコにインキュベーションセンターを開設

<http://japan.cnet.com/news/business/35039410/>

東洋経済オンライン

デジタルガレージ、サンフランシスコに新拠点

<http://toyokeizai.net/articles/-/23538>



キーノートセッションの様子。左から、DG共同創業者の伊藤穰一、Twitter社共同創業者のBiz Stone氏、映画「マイノリティー・リポート」のUIを監修したOblong社のJohn Underkoffler氏。



マネックスグループ 取締役会長の松本大氏、ネットプライスドットコム代表取締役社長 兼 グループCEOの佐藤輝英氏などが参加したスタートアップ企業に関するセッションの様子。(Photo by Taro Matsumura)

電通、cci、ADKと共同で次世代の広告マーケティングを展開  
「株式会社CGMマーケティング」の商号を「株式会社BI. Garage」に変更

### 企業ロゴ



### ミッション

電通グループ、DGグループのデータリソース（強み）を活かし、マスを含めたメディアとのアライアンスを進め、クライアントの「マーケティング活動の最適化」とメディアの「価値向上」を提供。

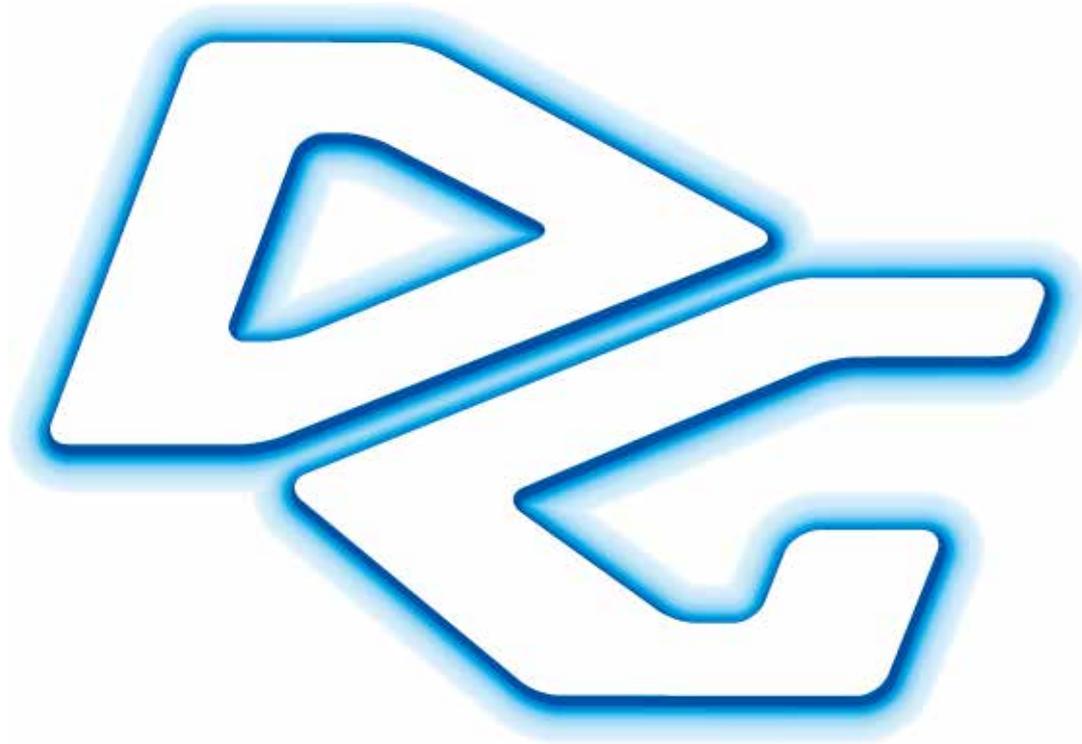
### 事業モデル



# ◆ 四半期セグメント推移（連結）

単位：百万円	2012.6期				2013.6期				2014.6期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
<b>売上高</b>	3,418	2,879	5,202	3,403	5,307	8,539	6,482	7,636	7,273
インキュベーション	583	17	1,973	37	131	616	497	1,263	927
マーケティング	1,906	1,939	2,295	2,416	2,364	2,748	2,825	3,104	3,068
ペイメント	928	922	933	949	2,810	5,174	3,158	3,269	3,277
<b>営業利益</b>	437	134	1,708	389	51	523	151	698	86
インキュベーション	387	136	1,650	268	258	56	20	512	77
マーケティング	142	139	163	65	129	120	55	167	136
ペイメント	154	128	142	126	308	480	253	260	203
<b>経常利益</b>	594	70	2,193	149	167	1,000	719	1,191	473
<b>当期純利益</b>	533	77	1,747	251	213	700	1,294	507	389
<b>EBITDA</b>	698	163	2,292	186	696	1,573	2,050	1,581	970
のれん償却費	44	44	44	56	200	333	211	195	191

Note: セグメント営業利益は、消去又は全社費用控除前ベース。EBITDAは、税引前当期純利益に支払利息、減価償却費及びのれん償却費を加算し算出しております。



# ***Digital Garage***

本資料に記載された今後の見通し、戦略などは現在の弊社の判断であり、様々な要因の変化により、将来の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご了承ください。この文書は、投資家向け説明資料として一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。また、この文書は、米国その他証券の売付けまたは買付けの勧誘を行うにあたり証券法の登録または資格要件の充足が必要となる地域における証券の売付けまたは買付けの勧誘を構成するものではありません。当社又は当社連結子会社の証券いかなる証券も 米国の1933年証券取引法（以下「1933年米国証券法」といいます。）に基づいた登録がなされておらず、1933年米国証券法に基づく登録を行うか、または登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の売付けまたは勧誘を行うことはできません。米国において証券の公募を行う場合には、公募を行う会社およびその経営陣ならびに財務諸表に関する情報を記載した目論見書によって行うこととなります。